

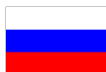
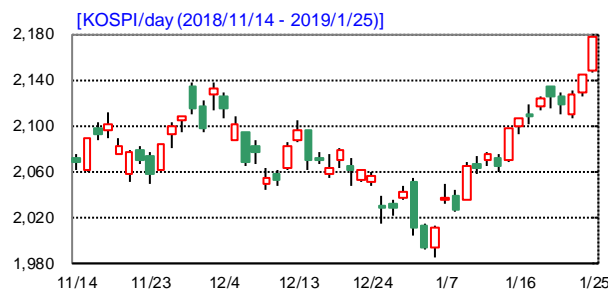


【韓国】 総合指数は週間で2.5%高と3週続伸、今週は米中協議の動向に注目

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で2.5%高と3週続伸。韓国企業の業績期待が高まる中で買いが加速した。週明け21日は続伸スタート。米朝首脳会談の2月開催や米中貿易摩擦を巡る協議進展が伝わり、投資家心理を支えた。翌22日は韓国の18年のGDP成長率が6年ぶりの低い伸びだった影響で反落したものの、その後は主要企業の18年10-12月期決算が好感される中で3日続伸。25日は終値ベースで、18年10月以来3カ月ぶりの高値を付けた。今週は30-31日に開かれる米中閣僚級協議を前に神経質な値動きとなるか。29-30日の米FOMCも注目される。一方、週末からは旧正月の連休に入るため、手じまい売りも広がりそうだ。主要経済指標では31日に鉱工業生産、2月1日に物価統計と貿易統計が発表される予定。

▼指数チャート

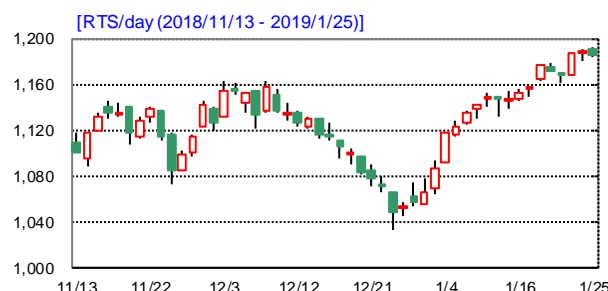


【ロシア】 RTS 指数は週間で1.3%高と4週続伸、今週は原油相場をにらむ展開か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で1.3%高と4週続伸。世界的な景気減速懸念が意識され、週前半は軟調に推移したが、その後に通貨ルーブルや原油相場の上昇を受けて反発した。中国の成長率鈍化やIMFの世界成長率見通しの引き下げを受けてリスク回避の流れが強まり、軟調に始まったが、23日はエネルギーのタネフチや金融のズベルバンク・オブ・ロシアが上昇し、指数は1.4%高と3日ぶりに反発。その後もルーブルや原油相場の上昇を背景に堅調な推移が続いた。ベネズエラが実質二重政権となり、同国に対してロシア政府とともに170億ドルの債権を持つロスネフチが1.4%安と下落したが、影響は限定的だった。指数は23日から3日続伸し、昨年10月3日以来の水準を回復して終えた。今週は原油相場をにらんだ展開か。

▼指数チャート

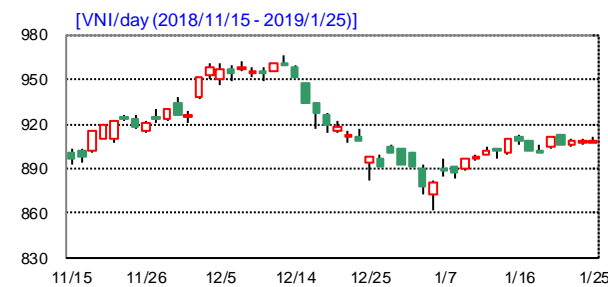


【ベトナム】 ベトナム指数は週間で0.7%高と反発、今週は米金融政策が焦点に

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で0.7%高と反発。中国の景気刺激策への期待を背景に上昇して始まったが、その後はIMFの世界成長率の下方修正が嫌気され、上値の重い展開が続いた。週明け21日は中国の景気刺激策への期待で金融株や不動産株が買われ、指数は1.0%高と上昇してスタート。ただ、22日はIMFが世界の成長率予測を下方修正したことで金融株や不動産株が売られ、指数も0.5%安と反落したが、その後は上値の重い展開ながらも指数は3日続伸して終了。3週連続で900ポイント台を維持した。時価総額2位で不動産のビンホームズが3.1%安となり指数の重しとなる半面、ベトナム産業貿易商業銀行、サコムバンク、軍隊商業銀行、ベトジェット航空が大幅に上昇した。今週は、米中関係や米金融政策をにらんだ展開か。

▼指数チャート

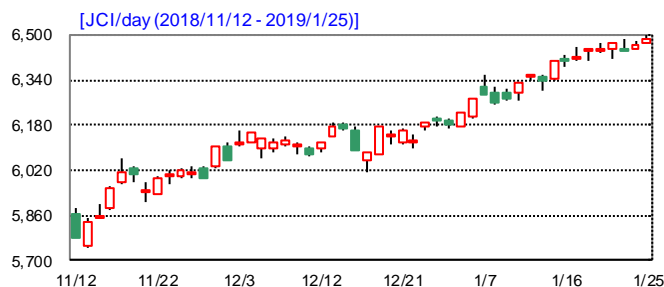


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.5%高、今週は 6500 ポイント到達に期待

ジャカルタ総合指数は週間で 0.5%高と 5 週続伸。国内の重要イベントが少ない中、おおむね堅調に推移した。21 日は中国の 18 年の GDP が 28 年ぶりの低成長だったものの、景気刺激策強化への期待感から買われると、22 日まで 6 営業日続伸。23 日は反落したが、24 日に買い戻された後、25 日には一時 6500 ポイント目前まで上昇した。今週は 1 日に 1 月の CPI が発表される予定で、前年同月比の上昇率は 3%台前半が続く見通し。外部要因では、週後半に中国の公式製造業 PMI と財新製造業 PMI が発表されるほか、30-31 日に予定されている米中の閣僚級貿易協議に対する市場の反応も焦点になる。

▼指数チャート

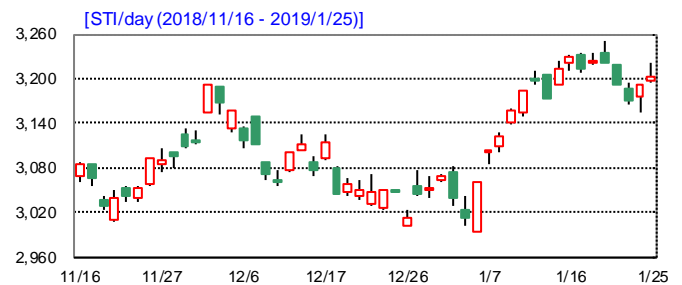


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 0.7%安、黒字回復のケッペルに買い

ストレーツタイムズ指数は週間で 0.7%安と 5 週ぶりに反落。週後半に反発したが補えなかった。週初の 21 日に反落すると、22 日は IMF が 19 年と 20 年の世界経済成長率の見通しを下方修正した影響で続落。23 日も金融株と工業関連株を中心に売り優勢の値動きが続いたものの、24 日に反動で買い戻されると、25 日は 18 年 10-12 月期の純損益が黒字に転換したコングロマリットのケッペルなどが買われ、指数は終値で 4 日ぶりに 3200 ポイントを回復した。今週は前週末の NY ダウが反発した流れを引き継げるかが焦点。29-30 日には米 FOMC が開催される予定で、会合後の議長会見の内容が注目される。

▼指数チャート

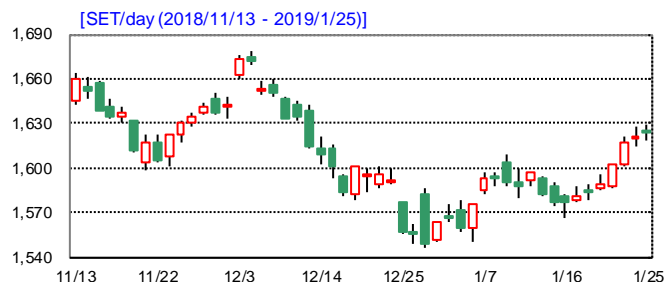


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 2.5%高、週末まで 8 営業日続伸と好調

SET 指数は週間で 2.5%高と反発。週末まで 8 営業日続伸と好調だった。週初の 21 日は、18 年 12 月の輸出入額（通関ベース）がともに市場予想から下振れしたものの、原油価格が年初来の高値を更新したことでエネルギー株が指数上昇をけん引。22 日に終値ベースで約 1 カ月ぶりに 1600 ポイントを回復すると、23 日は金融株と通信株が買われ、前日比 1.0%上昇した。今週は 31 日に 12 月の鉱工業生産、1 日に 1 月の CPI が発表される予定。為替相場では昨年末からドル安・パーツ高が進行しており、前週末には約 8 カ月ぶりの高値を更新している。今週もパーツ買いが進めば株式相場の追い風になりそうだ。

▼指数チャート

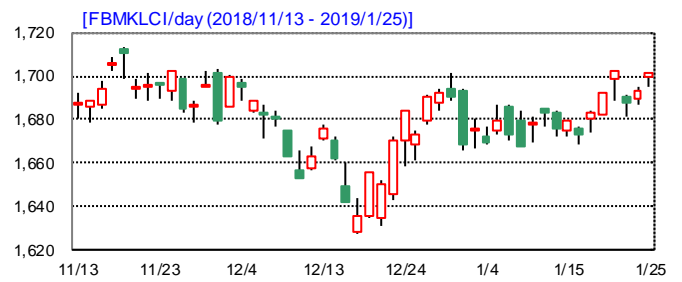


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.5%高、外国人投資家による資金流入が奏功

クアラルンプール総合指数は 4 日間の取引で 0.5%高と 3 週続伸。外国人投資家による資金流入が指数を支えた。連休明けの 22 日は引け際に優良株が買われ、終値で約 2 カ月ぶりに節目の 1700 ポイントに到達。一方、23 日は前日の NY ダウが下落した影響で 4 営業日ぶりに反落したが、24 日は 18 年 12 月の CPI 上昇率が前年同月比 0.2%と市場予想を下回り、物価上昇圧力が低下したことや、中央銀行が金融政策決定会合後の声明で今年の国内経済について楽観的な見方を示したことが好感されて反発した。今週は国内の経済イベントが少なく、外部要因が相場を左右しそうだ。1 日は連邦管轄領の日のため休場。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するにしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。